

日本映画復興会議

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-12-9

グランディールお茶の水 301 号室

電話 080-5462-2389 (井上) FAX 03-3964-3995

Email jimmu@nefk.net

<http://nefk.net/>

第 32 回 (2014 年度) 日本映画復興賞の決定

2015 年 4 月 25 日

日本映画復興会議は、2014 年度第 6 回幹事会 (2015 年 4 月 9 日) において、今年度の日本映画復興賞を次の通り決定しました。選出に当たっては、復興賞委員会における準備選考のほか、会員からの推薦を受け、幹事会において慎重に検討しました。

賞の贈呈式および祝賀パーティーは本年 6 月 13 日 (土) に開催する予定です。なお、日本映画復興会議全国集会も同日開催の予定です。

第 32 回 (2014 年度) 日本映画復興賞受賞者

日本映画復興賞 (2 件)

- ・高畑 勲監督
- ・大林宣彦監督

日本映画復興奨励賞 (3 件)

- ・映画『WOOD JOB!～神去なあなあ日常～』の矢口史靖監督はじめスタッフ一同
- ・映画『アフガニスタン 干ばつの大地に用水路を拓く 治水技術 7 年の記録』の谷津賢二監督はじめスタッフ一同
- ・映画『ジョバンニの島』の西久保瑞穂監督はじめスタッフ一同

感謝状 (1 件)

- ・故原田由一氏

以上

【選評】

代表委員 桂壮三郎

日本映画復興会議幹事会は、度重なる審議を重ねて、第32回(2014年度)日本映画復興賞2件、奨励賞3件を決定致しました。2014年の映画界は、『アナと雪の女王』のメガヒットがありましたが、年間の観客度員数や興行収入は前年に比べそれほどの伸びを見せていません。公開本数は、邦画と洋画を含めて過去最多の1,184本、そのうち邦画は615本ありましたが、復興賞候補作品として審議できる作品数が極めて少ない状況でした。もちろん、山田洋次監督の『小さいうち』、大林宣彦監督作品『野のなななのか』等の力作もありましたが、総じて日本映画の水準の低下は、憂慮すべき問題だといえます。一方、集団的自衛権行使容認の閣議決定を強行した安倍政権は「戦争する国」への暴走を強めていますが、これに異議を唱える国民の運動も盛んです。これら日本の切実な問題へ切り込む意欲的なドキュメンタリー作品も、少なからず発表されています。

それでは、第32回(2014年度)日本映画復興賞、奨励賞の選評を報告致します。

日本が誇るアニメーション監督の高畑勲監督を日本映画復興賞に選出しました。高畑監督は数多くの名作アニメを手掛け、1985年のスタジオジブリ創設に宮崎駿監督と共に参加しアニメーション映画文化を確立しました。2013年公開の『かぐや姫の物語』では、高度なアニメーション技術と緻密な創造力を改めて示しました。2015年フランス政府から長年の功績を認められ仏芸術文化勲章が授与されるなど、海外からも高い評価を得ています。また、映画人九条の会の結成呼びかけ人となり、特定秘密保護法、集団的自衛権行使容認に反対表明をするなど、平和の発言を明快に発信しておられます。

同じく、日本映画復興賞に大林宣彦監督を選出しました。大林監督は、学生時代から映像世界への飽くなき挑戦に挑み、自主製作のパイオニア的存在となり、その豊かな感性は映画界からも注目され、メジャーデビュー後は、尾道三部作などで興行的成功を収め、映画ファンから映像の魔術師とも呼ばれました。また、最近の作品『この空の花 長岡花火物語』『野のなななのか』においては、大林監督自身の平和への強い思いが作品に反映されています。そのような大林監督の独創的な創作活動を高く評価致しました。

次に、日本映画復興奨励賞の受賞者をご紹介します。

最初に、映画『WOOD JOB!～神去なあなあ日常～』の矢口史靖監督はじめスタッフ一同を、日本映画復興奨励賞に選出しました。本作は、都会育ちの少々軽薄な青年が、軽い動機から山奥の険しい林業の労働に従事し、初めて知る労働の厳しさと、仕事を会得する喜びの体験を通じて、真の労働の価値を見だし成長していく姿を笑いと感動と

迫力で表現しています。ユニークな題材をヒューマンな視点で描き、常に観客を楽しませてきた矢口史靖監督はじめスタッフ一同の功績を高く評価致しました。

同じく、ドキュメンタリー映画『アフガニスタン 干ばつの大地に用水路を拓く 治水技術 7年の記録』の谷津賢二監督はじめスタッフ一同を、日本映画復興奨励賞に選出しました。本作は、戦乱と干ばつのアフガニスタンで、住民の健康のため用水路開拓の土木事業に挑んだ日本人医師・中村哲氏の記録映画です。米軍のヘリコプターが上空を飛来するなか、現地住民の協力を得てさまざまな困難を克服していく映像記録は、見る者を圧倒します。そして、映画は真の国際貢献とは何かと静かに語り掛けます。7年の歳月を費やし見事な映像を制作した谷津監督とスタッフ一同を高く評価致しました。

同じく、アニメ映画『ジョバンニの島』の西久保瑞穂監督はじめスタッフ一同を、日本映画復興奨励賞に選出しました。本作は、太平洋戦争末期から終戦直後の色丹島を舞台に、ソ連の占領に伴い島民が遭遇した過酷な戦争体験を、二人の幼い兄弟の視点から歴史的事実に基づいて描いたアニメーション映画です。日本が再び「戦争をする国」になりかねないとの危機感と、西久保監督とスタッフの平和への熱い思いが強く伝わる作品となっています。その功績を高く評価致しました。

最後に、映画界の低迷期に日本映画復興会議の事務局長を務めた故原田由一氏へ感謝状を贈ります。原田氏は戦前から映画界で働き、戦後の東宝争議に参加して退社した後も、日映演本部付中央執行委員、映演総連事務局長を務め、その後、日本映画復興会議事務局長として、日本映画界の民主的な再生と発展を目指す活動に貢献されました。また、60年安保闘争時には『安保・三池の記録』のシナリオを執筆するなどの活躍もありました。生前の原田氏の業績を偲び、感謝状を授与することを決定しました。

その他に、受賞にはいたりませんでした。福島原発事故から立ち上がる人々を真摯に見つめた作品『家路』『物置のピアノ』、石井裕也監督の力作『バンクーバーの朝日』、戦争の影が迫る昭和初期の庶民の生活を描いた山田洋次監督の『小さいうち』、ドキュメンタリー作品では、世界記憶遺産に登録され日本の近代史を知る上からも貴重な山本作兵衛の炭坑絵画の記録映画『坑道の記憶～炭坑絵師・山本作兵衛～』等の作品を審議しました。また、昭和を代表する映画俳優であった、高倉健、菅原文太氏が相次いで亡くなりました。菅原文太氏が晩年、自身の戦争体験から「二度と戦争をする国にしてはいけない」との発言を続けたことは、われわれの心打つものがありました。日本映画復興会議として、お二人のご冥福をお祈り致します。

日本映画復興賞

高畑勲監督

高畑監督は、日本が誇るアニメーション監督です。東映動画労組が企画した『太陽の王子ホルスの大冒険』で初監督を務め、以後テレビアニメシリーズの『アルプスの少女ハイジ』『母をたずねて三千里』『赤毛のアン』ほか、劇場用アニメ『じゃりン子チエ』『ゼロ弾きのゴーシュ』など子どもたちの記憶に残る名作を数多く送り出しました。スタジオジブリ設立後は、『火垂るの墓』『おもひでぽろぽろ』をはじめ、戦争と平和、さらには人間の生き方を問う作品を送り出すとともに、宮崎駿監督作品のプロデューサーを務めるなど、劇場用長編アニメーションの映画文化を確立しました。2013年には、ライフワークとして長年構想を温めてきた『かぐや姫の物語』を完成し、その斬新な作画技法のみならず、『竹取物語』では隠されたかぐや姫の罪と罰を問う新たな視点を提示しました。また、映画人九条の会にも結成呼びかけ人として積極的に参加し、特定秘密保護法、集団的自衛権行使容認に反対表明をするなど平和の発言を明快に発信しています。これら功績を讃え、頭記の賞を贈ります。

日本映画復興賞

大林宣彦監督

映像作家大林宣彦監督の映画への熱い情熱と敬意、そして意欲的な創作活動は、衰退が叫ばれる現今の映画創造の分野に於いて、一段と輝きを増しています。大林監督は、学生時代から映像世界への飽くなき挑戦に挑み、自主製作のパイオニア的存在となり、その豊かな感性は映画界からも注目され、メジャーデビュー作『HOUSE』で早くもブルーリボン新人監督賞に輝くなど、その才能は映画界で遺憾なく発揮されました。『転校生』『時をかける少女』『さびしんぼ』は、尾道三部作として話題を集め興行的に成功を収めました。その後の作品も同様に多くの観客を魅了し、映画ファンから映像の魔術師とも呼ばれました。また、『この空の花 長岡花火物語』『野のなななのか』は、監督自身の平和への強い思いが反映された作品として、全国へ発信され大林ワールドを遺憾なく発揮されました。日本映画復興会議は大林宣彦監督の長年にわたる創作活動を讃え、また、日本映画への貢献を高く評価し、頭記の賞を贈ります。

日本映画復興奨励賞

映画『WOOD JOB!～神去なあなあ日常』の矢口史靖監督はじめスタッフ一同

本作は、林業に携わることになった都会育ちの青年が、地域の人々に支えられながら、働くことの意味を自ら見いだしていく姿を、笑いと感動、そして迫力のアクションシーンを交えて描いています。あまり知られていない林業の現場を丹念に取材し、林業という仕事の過酷さや楽しさ、スケールの壮大さ、自然の中で働く清々しさなど、その重要性和素晴らしさを見事に伝え、それらによって若者が成長する姿が説得力を持って語られます。ユニークな題材をヒューマンな視点で描き続け、観客を楽しませてきた矢口史靖監督の面目躍如です。その功績を讃え、頭記の賞を贈ります。

日本映画復興奨励賞

映画『アフガニスタン 干ばつの大地に用水路を拓く―治水技術 7年の記録―』の谷津賢二監督はじめスタッフ一同

本作は、日本人医師・中村哲氏が、アフガニスタンの干ばつの大地で飢えている人々を救うために、医師でありながら自ら用水路を設計、工事を指揮して7年かけて築く姿を記録しています。この用水路は3000ヘクタールの農地を甦らせました。用水路の工事を進める頭上で、アメリカ軍のヘリコプターが飛んでいます。戦争で殺すために空を飛ぶヘリコプターと生きるために地面を掘る人々の姿が対比的にとらえられています。真の日本人の国際貢献とは何かを静かに訴える感動的な作品でした。その功績を讃え、今後の一層の活躍を期待し、頭記の賞を贈ります。

日本映画復興奨励賞

映画『ジョバンニの島』の西久保瑞穂監督はじめスタッフ一同

本作は、第二次世界大戦末期に、色丹島で暮らす二人の幼い兄弟が遭遇した旧ソ連軍の侵攻や日本人の抑留などの過酷な戦争体験を、実話に基づく綿密な取材でアニメーション化しました。日本が再び「戦争をする国」になってしまうのではとの不安と危惧が広がるなか、8月15日を過ぎてなお続いた戦争の悲劇を掘り起し、これまで見過ごされてきたものの、忘れてはならない戦争の記憶を語り継ぐ重要な作品となりました。宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』をモチーフにした美しい自然の描写にも魅了されます。その功績を讃え、今後の一層の活躍を期待し、頭記の賞を贈ります。

感謝状

故原田由一氏

貴方は戦前東宝撮影所演出部助手として勤務、戦後「来なかったのは軍艦だけ」といわれた東宝争議に参加、1950年5月東宝退社後は組合運動において、日映演本部付中央執行委員をはじめ映演総連事務局長を務め、その後、日本映画復興会議事務局長・幹事として、日本映画界の民主的な再生と発展を目指す活動に貢献されました。他方、東宝助手時代には、山本薩夫、山本嘉次郎作品の助監督を務め、60年安保闘争時には『安保・三池の記録』のシナリオを執筆しました。生前の業績を偲び、貢献に心から感謝し、貴方の遺志を継ぐことを誓って、頭記の賞を贈ります。

〈参考〉

「日本映画復興会議」について

日本映画復興会議は、日本映画の文化的・産業的復興と民主的な再生をめざして活動を進めています。

日本映画復興会議は 1961 年、高度成長とは裏腹に映画観客動員数が激減する危機のなか、映演総連（映画演劇労働組合総連合＝現映演労連）、全映演（全国映画演劇労働組合連合）の呼びかけによって、独立プロ、普及事業者、鑑賞団体、作家等が参加し、設立されました。以来 50 年以上にわたり、時代ごとのさまざまなテーマに取り組んできました。

現在は、年 1 回の全国集会で映画界が直面する多様で複雑化する課題を分野の垣根を越えて共有することに努めるとともに、映画界の発展のための各種活動、「日本映画復興賞」の運営などを行っています。

〈2014 年度役員〉

代表委員 神山征二郎（神山プロダクション代表 映画監督）

桂 壮三郎（ゴーゴービジュアル企画代表取締役 映画プロデューサー）

事務局長 井上 徹（エイゼンシュテイン・シネクラブ代表 映画研究者）

「日本映画復興賞」について

故山本薩夫監督の発意により 1983 年から始まったもので、「平和と民主主義を守り、戦争に反対し、ヒューマニズムの理念に徹した日本映画の業績」を表彰する賞です。厳しい映画情勢のもと、製作・配給（普及）・興行・鑑賞などの各分野で、日本映画の産業的復興と文化的向上を進めるため、懸命の努力を続けている多くの人々に対し、そのたゆまぬ努力を積極的に評価し、激励する役割を果たしてきました。

日本映画復興会議幹事会において受賞者を決定して毎年発表し、日本映画復興会議全国集会に併せて授賞式を開催しています。

日本映画復興賞 受賞作品・団体・個人一覧 (1983～2014 年度)

□第1回 [1983 年度]

- ◇復興賞・木下恵介監督
【映画『この子を残して』など戦後一貫した優れた業績にたいして】
- ◇奨励賞・乙羽信子氏
【日本初の反核映画『原爆の子』をはじめ、数多くの優れた日本映画に貢献】
- ◇奨励賞・人形アニメ『おこりじぞう』製作スタッフ一同
【反核平和の主題を優れた技術で豊かに表現した】

□第2回 [1984 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・小栗康平監督
【映画『伽耶子のために』の優れた演出】
- ◇奨励賞・記録映画『悪魔のミサイル・核トマホーク』『生きるための証言・いまヒロシマから』『海・いまトマホークが』『核戦争3分前！横田基地は…いま』の各製作スタッフ一同
- ◇奨励賞・広島国際アマチュア映画祭
【平和と生きることの尊さをモットーに映像文化の発展に貢献】
- ◇特別賞・渥美 清氏
【映画『男はつらいよ』シリーズの主演者として】

□第3回 [1985 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・記録映画『戦場ぬ童』製作スタッフ一同
- ◇特別賞・故 浦山桐郎監督

□第4回 [1986 年度]

- ◇復興賞・映画『キネマの天地』製作スタッフ一同
【日本映画の伝統を継承し発展させる情熱を込めた作品にたいして】
- ◇復興賞・映画『母さんの樹』製作スタッフ一同
【困難の自主製作・自主上映運動により闘う女性労働者のイメージを創造】
- ◇復興賞・記録映画『さくらんぼ坊や』6部作『アリサーヒトから人間へ』の製作スタッフ一同
【10年間にわたり優れた幼児教育実践を記

録した】

- ◇復興賞・田村高廣氏
【映画『春駒のうた』『海と毒薬』への貢献】
- ◇特別功労賞・木村荘十二監督
【日本映画の長老として戦後は教育、児童映画の発展に貢献した】

□第5回 [1987 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・親と子のよい映画をみる会〔親子映画運動〕
- ◇奨励賞・記録映画『ドキュメント三宅島』『怒りの三宅島』の製作スタッフ一同

□第6回 [1988 年度]

- ◇復興賞・新藤兼人監督
- ◇奨励賞・日本電波ニュース社
- ◇奨励賞・千野皓司監督
- ◇奨励賞・全国農村映画協会
- ◇奨励賞・運輸一般
- ◇奨励賞・記録映画『足跡』の国鉄労働組合と斉藤茂夫監督ほか製作スタッフ一同

□第7回 [1989 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・国立市職員組合内「原爆の映画を毎月上映する会」
- ◇奨励賞・映画『さくら隊散る』福井県下100カ所上映運動
- ◇特別賞・日本記録映画作家協会
【創立35年間の活動にたいして】

□第8回 [1990 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・記録映画『ビキニの海は忘れない』製作スタッフ一同
- ◇特別賞・今井 正監督

□第9回 [1991 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・アニメ映画『うしろの正面だあれ』の有原誠治監督ほか製作スタッフ一同
- ◇奨励賞・大阪シナリオ学校
- ◇奨励賞・映画『戦争と青春』の市民プロデューサー運動

◇奨励賞・映画『北緯 15° のデュオ』の根本順善監督ほか製作スタッフ

□第 10 回 [1992 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・映画『シコふんじゃった』の周防正行監督ほか製作スタッフ
- ◇奨励賞・記録映画『同姓同名者からの手紙』の金高謙二監督ほか製作スタッフ
- ◇特別賞・故 大黒東洋士氏

□第 11 回 [1993 年度]

- ◇復興賞・映画『学校』の山田洋次監督ほかスタッフ一同
- ◇奨励賞・神山征二郎監督ほか関係スタッフ
- ◇奨励賞・アニメ映画『つるにのって』のピース・アニメの会の運動
- ◇功労賞・絲屋寿雄氏
- ◇感謝状・故 川喜多かしこ氏

□第 12 回 [1994 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・中山節夫監督

□第 13 回 [1995 年度]

- ◇復興賞・堀川弘通監督
- ◇奨励賞・星山 圭監督
- ◇奨励賞・近藤喜文監督
- ◇奨励賞・高橋一郎監督を中心とした製作集団

□第 14 回 [1996 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・『人間の翼—最後のキャッチボール』の岡本明久監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・『金色のクジラ』の大澤 豊 監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・記録映画『人間の住んでいる島』の橋祐典監督をはじめ製作委員会一同
- ◇奨励賞・映画鑑賞団体全国連絡会議〔全国映画連〕
- ◇感謝状・故 渥美 清氏

□第 15 回 [1997 年度]

- ◇復興賞・熊井 啓監督
- ◇特別賞・岩波ホールの高野悦子総支配人ほかスタッフ一同
- ◇特別賞・樋口源一郎監督
- ◇特別賞・スタジオジブリ・スタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『誘拐』の大河原孝夫監督ほか

スタッフ一同

- ◇奨励賞・岡山市職員労働組合
- ◇奨励賞・『PiPi ピピ とべないホテル』石川県上映をすすめる会
- ◇奨励賞・平和映画を上映する会（多摩市）
- ◇功労賞・能登節雄氏

□第 16 回 [1998 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・松井久子氏
- ◇奨励賞・映画『カメジロー・沖縄の青春』製作上映委員会
- ◇奨励賞・映画『どんぐりの家』全国上映実行委員会
- ◇奨励賞・人吉くま映画文化協会
- ◇感謝状・故 木下恵介氏

□第 17 回 [1999 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・映画『チンパオ』の中田新一監督
- ◇奨励賞・映画『アイ・ラブ・ユー』の大澤豊監督・米内山明宏監督とスタッフ一同
- ◇奨励賞・記録映画『日独裁判官物語』製作普及 100 人委員会と片桐直樹監督ほかスタッフ一同
- ◇奨励賞・京都映画サークル協議会
- ◇特別賞・羽田澄子監督
- ◇特別賞・岡崎宏三氏
- ◇感謝状・故 管家まり氏

□第 18 回 [2000 年度]

- ◇復興賞・映画『郡上一揆』
- ◇奨励賞・映画『ナビィの恋』の中江裕司監督ほかスタッフ一同
- ◇奨励賞・阿部 勉応援団
- ◇奨励賞・映画『アイ・ラブ・ユー』山形県下 44 市町村上映運動
- ◇奨励賞・松竹労働組合大船分会の仲間たち
- ◇特別賞・株式会社近代映画協会
- ◇特別賞・共同映画株式会社

□第 19 回 [2001 年度]

- ◇復興賞・映画『ホテル』
- ◇奨励賞・『日本鬼子』製作委員会
- ◇奨励賞・映画『チンパオ』上映推進 1000 人委員会 酒井哲雄氏
- ◇特別賞・映画演劇労働組合総連合〔映演総連〕
- ◇感謝状・故 伊藤武郎氏

□第20回 [2002年度]

- ◇復興賞・羽田澄子氏
- ◇奨励賞・映画『阿弥陀堂だより』の小泉堯史監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『住井すゑ 百歳の人間宣言』の橋祐典監督はじめスタッフ一同
- ◇特別賞・映画センター全国連絡会議

□第21回 [2003年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・記録映画『延安の娘』の池谷 薫 監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・記録映画『ヒバクシャ～世界の終わりに』の鎌仲ひとみ監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・記録映画『風の舞 闇を拓く光の詩』の宮崎信恵監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『精霊流し』の田中光敏監督
- ◇奨励賞・忍足亜希子氏
- ◇特別賞・鈴木文夫氏

□第22回 [2004年度]

- ◇復興賞・黒木和雄氏
- ◇復興賞・鈴木敏夫氏
- ◇復興賞・桂壮三郎氏
- ◇奨励賞・佐々部清氏
- ◇奨励賞・映画『草の乱』の自主製作上映運動
- ◇奨励賞・記録映画『熊笹の遺言』今田哲史監督

□第23回 [2005年度]

- ◇第1回日本映画復興大賞・新藤兼人氏
- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・『Little Birds イラク 戦火の家族たち』の綿井健陽監督
- ◇奨励賞・『映画 日本国憲法』のジャン・ユンカーマン監督
- ◇奨励賞・『にがい涙の大地から』の海南友子監督
- ◇奨励賞・『時代を撃て・多喜二』の池田博穂監督
- ◇奨励賞・NPO 法人 市民シアター・エフ
- ◇奨励賞・「アンゼラスの鐘」製作を支援するナガサキの会
- ◇感謝状・故 樋口源一郎氏

□第24回 [2006年度]

- ◇復興賞・『蟻の兵隊』の池谷薫監督
- ◇復興賞・香川京子氏
- ◇復興賞・㈱マツダ映画社

- ◇復興賞・李鳳宇氏

- ◇奨励賞・『三池 終わらない炭鉱の物語』の熊谷博子監督
- ◇感謝状・故 田村高廣氏

□第25回 [2007年度]

- ◇復興賞・大澤 豊氏
- ◇復興賞・高野悦子氏
- ◇復興賞・三國連太郎氏
- ◇奨励賞・井筒和幸氏
- ◇奨励賞・柴田昌平氏
- ◇奨励賞・山本保博氏

□第26回 [2008年度]

- ◇復興賞・『母べえ』山田洋次監督ほかスタッフ一同
- ◇復興賞・神山征二郎氏
- ◇奨励賞・『ブタがいた教室』の前田 哲監督
- ◇奨励賞・東北4県における映画『ふみ子の海』の上映運動
- ◇感謝状・故 杉崎光俊氏

□第27回 [2009年度]

- ◇復興賞・映画『沈まぬ太陽』
- ◇復興賞・山本洋子氏
- ◇復興賞・『いのちの山河～日本の青空Ⅱ』製作委員会
- ◇奨励賞・『荒木栄の歌が聞こえる』製作委員会
- ◇奨励賞・橋本信一氏

□第28回 [2010年度]

- ◇復興賞・仲代達矢氏
- ◇復興賞・『アンダンテ～稲の旋律～』の金田敬監督はじめスタッフ一同
- ◇復興賞・加藤周一映画製作実行委員会
- ◇奨励賞・映画『月あかりの下で ある定時制高校の記憶』の太田直子監督
- ◇奨励賞・映画『トロッコ』の川口浩史監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『パートナーズ』の下村優監督はじめスタッフ一同
- ◇特別賞・故 橋 祐典氏

□日本映画復興会議50周年記念復興賞
[2010年度]

- ◇新藤兼人監督
- ◇山田洋次監督
- ◇山田和夫氏

□第 29 回 [2011 年度]

- ◇復興賞・映画『一枚のハガキ』の新藤兼人監督はじめスタッフ一同
- ◇復興賞・西田敏行氏
- ◇奨励賞・映画『ミツバチの羽音と地球の回転』（鎌仲ひとみ監督）
- ◇奨励賞・映画『大津波のあとに』（森元修一監督）および『槌音』（大久保愉伊監督）
- ◇奨励賞・映画『がんばっぺ フラガール！～フクシマに生きる。彼女たちのいま～』（小林正樹監督）
- ◇奨励賞・映画『あぜみちジャンピンッ！』の西川文恵監督はじめスタッフ一同
- ◇特別賞・故 武田 敦氏

- ◇奨励賞・映画『ジョバンニの島』の西久保瑞穂監督はじめスタッフ一同

□第 30 回 [2012 年度]

- ◇復興賞・映画『いわさきちひろ～27 歳の旅立ち～』（海南友子監督）
- ◇奨励賞・映画『希望の国』の園子温監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『放射線を浴びた [X 年後]』の伊東英朗監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・中津川映画祭実行委員会
- ◇特別賞・故 南 文憲氏

□第 31 回 [2013 年度]

- ◇復興賞・映画『少年 H』の降旗康男監督はじめスタッフ一同
- ◇復興賞・映画『標的の村』の三上智恵監督
- ◇復興賞・映画『ひまわり 沖縄は忘れないあの日の空を』の及川善弘監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『遺体 明日への十日間』の君塚良一監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『渡されたバトン さよなら原発』の池田博穂監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『約束 名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯』の齊藤潤一監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『原爆症認定集団訴訟の記録 おりづる』の有原誠治監督
- ◇奨励賞・映画『食卓の肖像』の金子サトシ監督

□第 32 回 [2014 年度]

- ◇復興賞・高畑 勲監督
- ◇復興賞・大林宣彦監督
- ◇奨励賞・映画『WOOD JOB!～神去なあなあ日常～』の矢口史靖監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『アフガニスタン 干ばつの大地に用水路を拓く 治水技術 7年の記録』の谷津賢二監督はじめスタッフ一同